

火山調査研究推進本部

第2回 政策委員会 議事要旨（詳細版）

1. 日時 令和6年8月9日（金） 10時00分～11時00分
2. 場所 文部科学省 3F1特別会議室及びオンラインのハイブリッド開催
3. 議題
 - (1) 火山調査研究の推進に係る総合基本施策及び調査観測計画の要点について
 - (2) 火山調査研究推進本部の広報に関する取組状況
 - (3) 火山調査委員会の活動状況
 - (4) 令和7年度火山調査研究関係予算概算要求について（非公開）
4. 配布資料
 - 資料 政1－(1) 火山に関する観測、測量、調査及び研究の推進に係る総合基本施策、火山に関する総合的な調査観測計画の要点（案）
 - 資料 政2－(2) 火山に関する観測、測量、調査及び研究の推進に係る総合基本施策、火山に関する総合的な調査観測計画の要点（案）概要
 - 資料 政2－(3) 火山調査研究推進本部の広報に関する取組状況
 - 資料 政2－(4) 火山調査委員会の活動状況
 - 資料 政2－(5) 令和7年度の火山調査研究関係予算概算要求について（案）（非公開資料）
 - 資料 政2－(6) 令和7年度の火山調査研究関係予算概算要求の概要（案）（非公開資料）
 - 資料 政2－(7) 令和7年度の関係機関の火山調査研究に関する取組（非公開資料）
 - 資料 政2－(8) 火山調査研究推進本部関係会議の開催実績及び当面の開催予定
 - 参考 政2－(1) 火山調査研究推進本部政策委員会構成員
 - 参考 政2－(2) 火山調査研究推進本部政策委員会運営要領
 - 参考 政2－(3) 火山調査研究推進本部第1回政策委員会議事要旨
 - 参考 政2－(4) 火山に関する調査研究予算等の事務の調整について

5. 出席者

(委員長)

藤井 敏嗣

山梨県富士山科学研究所所長／
国立大学法人東京大学名誉教授

(委員) ※学識経験者

清水 洋

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
火山研究推進センター長／

国立大学法人九州大学名誉教授

瀧澤 美奈子

科学ジャーナリスト

田中 淳 (委員長代理)

東京大学大学院情報学環特任教授

西村 太志

東北大学大学院理学研究科教授

森田 裕一

国立研究開発法人 防災科学技術研究所 特別研究員／

国立大学法人東京大学名誉教授

(委員) ※関係行政機関

西山 英将

内閣官房副長官補 (内政担当) 付内閣審議官

貴名 功二

内閣府大臣官房審議官 (防災担当) (代理出席)

井出 真司

総務省国際戦略局技術政策課研究推進室長 (代理出席)

堀内 義規

文部科学省研究開発局長

大出 真理子

経済産業省イノベーション・環境局基準認証政策課

知的基盤整備推進官 (代理出席)

山越 隆雄

国土交通省水管管理・国土保全局砂防部砂防計画課

地震・火山砂防室長 (代理出席)

(常時出席者)

宮川 康平

国土地理院測地観測センター長 (代理出席)

青木 元

気象庁地震火山部長 (代理出席)

(事務局)

橋爪 淳

文部科学省大臣官房審議官 (研究開発局担当)

梅田 裕介

文部科学省研究開発局地震火山防災研究課長

吉田 和久

文部科学省研究開発局地震火山防災研究課地震火山室長

相澤 幸治

文部科学省研究開発局地震火山防災研究課

火山調査管理官

佐藤 壮紀

文部科学省研究開発局地震火山防災研究課

地震火山室調査研究企画官

6. 議事概要

・冒頭挨拶

【藤井委員長】「おはようございます。今回、第2回の政策委員会となります。これまで2回、総合基本施策、調査観測研究部会において議論を行ってきた火山調査研究の推進に係る総合基本施策及び調査観測計画の要点と、それから、令和7年度の火山調査研究関係予算概算要求について審議をいたします。ちょうどこの8月末が概算要求の時期となっておりますので、本日、この政策委員会の開催となりました。また、火山本部の広報に関する取組状況と、火山調査研究委員会の活動状況についても報告があります。本日はよろしくお願ひいたします。」

【堀内局長】「7月に研究開発局長に着任しました堀内です。よろしくお願ひいたします。藤井委員長をはじめ、今日集まりの委員の皆様におかれましては、暑い中、また、お忙しい中、御参画賜りましてありがとうございます。4月1日の火山調査推進本部の設置以来、火山本部では、我が国における火山調査研究の司令塔ということで、調査観測や、火山研究の一元的な推進、それから、火山研究実務人材の育成、それから、火山に関する総合的な評価というようなことを行っていくために、委員の皆様をはじめ多くの関係者の御協力を賜りながら、議論を進めているところであります。重ねて、そういった充実した議論を進めていただいていることに対し感謝申し上げます。」

今般、西村委員を部会長とする総合基本施策・調査観測計画部会を2回ほど開催させていただきまして、総合基本施策及び調査観測計画の要点というものの案を取りまとめてさせていただいております。また、事務局では関係機関から御協力を賜りながら、令和7年度の火山調査研究予算概算要求についての調整や、火山や火山本部に関する各種広報活動を行ってまいりました。特に予算につきましては、現在準備中ですが、火山観測体制の評価であるとか人材等も充実していこうというようなところの施策について、予算的にも拡充を考えているところであります。

本日はこれらの取組に関する議題について、藤井委員長をはじめ各委員の皆様から、いろいろ御意見を賜れればというふうに思っております。どうかよろしくお願ひします。どうもありがとうございました。」

（1）火山調査研究の推進に係る総合基本施策及び調査観測計画の要点について

- ・西村委員：「資料 政2-（1）～（2）」に基づき、「火山に関する観測、測量、

調査及び研究の推進に係る総合基本施策、火山に関する総合的な調査観測計画の要点」の案について説明。議論の上、原案を一部修正し、政策委員会として決定した。主な意見・回答は以下の通り。

【田中委員長代理】2点コメントさせていただきたい。1点目は、3頁目の機動的調査観測の項目に関して。いろんなタイプの機動観測が多分行われていくと思うが、社会的状況によっては機動的観測という行為 자체がすごく社会的に注目を集めてしまう可能性もあるような気がする。そういう面では、ここでの表現はこの辺で止めておいていただいてよいと思うが、火山調査委員会の方の規約の中に臨時会議というのが出ているが、その臨時会議の中に災害が発生又はおそれがあるときに開くというふうになっている。それに伴って機動観測が出る可能性があるので、そこは出やすいうにハードルを下げた基準を明確にしておいて、それで容易に機動観測ができるような形というものを考えた方がよいような気がした。そういう意味で西村先生にお願いは、いずれ基準というのを、しかも比較的緩いなという基準が必要だと思つたりもした。

2点目は、5頁目の(3)火山に関する総合的な評価を活動火山対策に活用するための調査及び研究の、最初の中黒の、「火山ハザード情報を効果的に伝達する手法」という表現になっているが、もし可能であれば、これを「活用」という表現に変えていただければというふうに思った。趣旨は、科学的に生み出された情報を上意下達するだけではなくて、社会の中で必ずこの火山情報というのは不確実性が伴うので、社会としてどう使っていくのかということをやはり検討していくなければいけないと思う。そこに関するということで、表題も活用となっているので、ここも活用に合わせていただければ有り難い。

【藤井委員長】今、田中委員の方から2点御意見があった。機動観測については、特に現時点で変える必要はないけれども、機動観測を発足させるに当たっての基準というものをきちんと議論をする必要があるということで、これは秋以降に部会の中で施策あるいは基本方針を議論する中で考えていただこうと思う。実際には、緊急時の機動観測については、緊急時に出やすくするために平時から機動的な調査観測解析グループを置いておくことがあるが、それとの関連も含めて今後の議論に任せたいと思う。

2点目の5頁にある火山ハザードの影響評価手法に関する調査及び研究について

て、いま田中委員から御指摘あったように、これは伝達するだけではなくて、活用するということの方が本来あるべき姿だと思う。上意下達みたいな形に取られることは決して本意ではないので、この文章はこの委員会の席で「活用する」という方向で変更したいと思う。

(2) 火山調査研究推進本部の広報に関する取組状況

- ・事務局（佐藤）：「資料 政2－（3）」に基づき説明。

(3) 火山調査委員会の活動状況

- ・「資料 政2－（4）」に基づき、清水委員（火山調査委員会委員長）及び森田委員（機動調査観測部会長）から説明。

(4) 令和7年度火山調査研究関係予算概算要求について（非公開）

- ・「資料 政2－（5）～（7）」に基づき、事務局から説明。原案のとおり本部会議へ諮ることとなった。

以上